


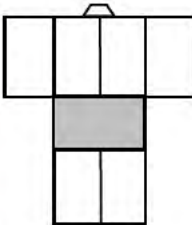



平成22年度 食品中異物検査(昆虫類)のまとめ

医動物担当では、市民、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者等の依頼を受け、昆虫類を中心に食品に混入した異物について検査を行っています。平成22年度の検査実績は、12検体でした。

依頼された12検体のうち昆虫類は9検体で、チョウ目3検体、コウチュウ目2検体、ゴキブリ目2検体、ハエ目1検体、ハチ目1検体でした。今回は、同定結果の詳細を報告します。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
黒糖に混入	 幼虫、乳白色、約10~12mm	ノシメダラメイガ (チョウ目)	幼虫は米などの穀物、ナッツ、チョコレート、乾燥果実、豆菓子など多くの貯蔵食品、乾燥食品を食害する。関東付近では、4月上旬に第一世代目の羽化がはじまり、通常年3~4世代と考えられる。
すりゴマに虫が混入	 幼虫、乳白色、約8mm	ノシメダラメイガ (チョウ目)	世界共通種で、広く日本に分布する。 ノシメダラメイガ(熨斗目斑螟蛾)の名は、成虫の翅の模様が着物の熨斗目模様
大紅荳椒干(唐辛子)の中にガと思われる虫が混入	 幼虫、乳白色、約10mm	ノシメダラメイガ (チョウ目)	成虫、茶褐色、約7mm  【参考】熨斗目模様 
自宅で調理したハンバーグを食べた後、幼虫を発見した	 幼虫、乳白色、約2mm	タバコシバンムシ (コウチュウ目)	食品を加害するのは幼虫のみで、その食性は広く、被害食品の種類は100種をこえる。穀類の粉、香辛料、パン、菓子類、コアなど多くの乾燥食品を加害する代表的な食品害虫。年2~3回発生する。日本では全国各地に分布する。
購入した菓子パンを食べていたときに、練りこまれた状態の虫を発見した	 成虫、茶褐色、約3mm	ノコギリヒラタムシ (コウチュウ目)	穀類の全粒を加害することはできず、碎粉に発生する。また、小麦粉などの完全粉も好まない。穀類の破片の混ざった粉やビスケットなどにしばしば大発生する。年3~4回発生し、日本では全国各地に分布する。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
購入した弁当を食べていて虫を発見した	 雄成虫、褐色、約14mm	チャバネゴキブリ (ゴキブリ目)	体は褐色で前胸背に1対の黒状紋がある。代表的な屋内ゴキブリで、ビル、レストラン、病院など暖房設備が完備された建築物に特に多く見られる。日本では全国各地に分布する。
ふりかけに虫が混入	 幼虫、茶褐色、約12mm	ゴキブリ科の一種 (ゴキブリ目)	屋内で見られるゴキブリは雑食性で、植物性、動物性の食品はたいてい食べる。成虫、幼虫ともに日中は屋内の潜伏場所で過ごし、夜になると餌と水を求めて活動する。
お弁当に混入していた	 卵、乳白色、約1.5mm	ハエの卵 (ハエ目)	ハエ類はあらゆる動植物質から発生する。厨芥、排水管や下水、動物の糞など、食性は多様である。
即席きもすいに虫が混入	 成虫、褐色、約3mm	アシトコバチ科 の一種(ハチ目)	寄生性のコバチ類の中では比較的大型である。チョウ目(ガ・チョウ類)、コウチュウ目、ハエ目の蛹に寄生する。
飲食店でレバニラ炒めを食べている最中に気がついた	 淡褐色、約10mm	昆虫類等の脚ではない	昆虫類の脚にみられる、節や毛がみられなかった。
購入した小女子の佃煮に虫の脚のようなものが混入していた	 茶褐色～黒色、約35mm	昆虫類等の脚ではない(小女子佃煮の一部)	小女子の皮と推定される光沢部分や斑紋がみられた。
貝を食べた後、歯を磨いていたところ、寄生虫のようなものに気がついた	 暗赤色、約4mm	寄生虫ではない	多くの魚類寄生虫にみられる環状構造ではなかった。